

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600559		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町大字稲富712-1		
自己評価作成日	平成29年11月20日	評価結果市町村受理日	平成30年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosyoCd=2172600559-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成29年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様と職員が、なごやかな雰囲気の中で会話をし、話の中から要望等を聞き、毎日のケアの中に取り入れています。生活の場である当ホームで心穏やかに、笑い合える時間を過ごして頂けるように一人ひとりと関わる時間をたくさん作っています。また、いつでも開放している庭には畑や季節の花々、果実の木がありその手入れを一緒にに行ったり、料理作りを手伝って頂いたり、利用者様がいきいきと生活できるように支援に努めています。看取りを希望されるご家族が増えてきていますので、ご家族、主治医、看護師、介護職員が連携し、最期の時を迎えられるまで寄り添い支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街から少し離れた位置に建てられたこのホームは、自然に囲まれ、園庭には、シンボルツリーでもある大きなケヤキの樹がある。利用者は、自由に庭に出ることができ、自発的に、広い庭の枯葉掃除をするなど、一人ひとりが自分の役目を持って暮らしているホームである。協力医の往診と訪問看護によって、利用者の体調管理を密に行い、離れて暮らす家族の安心感につなげている。管理者は、職員の意見や提案を取り入れながら、労働環境を整え、働きやすい職場作りに努めている。また、職員は、利用者が笑顔で穏やかに暮らせるよう、一人ひとりの思いに寄り添い、日々の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に運営理念を意識できるように、施設内に掲示している。朝のミーティングや職員全体会議においても、理念に基づいた話し合いのもと支援を行っている。	開設当初から、権利の尊重と心穏やかな介護や、地域医療の連携という理念を掲げ、玄関に掲示している。全職員が、常に理念の共有と確認を行い、日々のケアに活かすよう支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が野菜を届けて下さったり、消防訓練に参加して頂いている。夏休みには小中学生のボランティアを受け入れており、認知症についての理解が得られるように講義と実践を交えている。スーパーや散歩などでの挨拶や会話もよい交流となっている。	事業所は、地域の清掃活動や祭りへ参加したり、小学校の運動会に招かれるなど、地域の一員として、様々な交流を行っている。また、小中学生の福祉体験の受け入れも行っている。地域住民から野菜の差し入れなど、日常的な付き合いもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が介護で困っていることで相談にいられたりする時は丁寧に対応している。地域の高校で介護初任者研修の講師を行い、学生に介護の理論や認知症の理解を深めてもらうように取組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、行政の職員、他グループホームの管理者、家族代表の方に参加して頂き、事業所の活動状況を報告している。また、研修や認知症支援の事例を用いグループホームの役割や認知症の理解を深めている。	運営推進会議は、行政や自治会、民生委員、他ホームの管理者、家族代表の参加を得て、2か月毎に行っている。活動状況やヒヤリハット、研修等の報告を行い、地域の独居高齢者情報や相談等で、意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催の会議、研修等に積極的に参加し、協力関係を深めている。また困難事例など相談したり、利用者様の情報交換も行っている。運営推進会議への参加もよい交流の場となっている。	行政とは、介護保険制度の動向や、生活保護受給者についての相談などを行っている。また、行政主催の研修には積極的に参加し、良好な協力関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や扉などオープンにして自由に庭先や別棟に行けるよう、見守りしながら対応している。定期的に研修会を開き職員全体で話し合い、理解を深めている。現在は対象者はいないが、やむを得ず拘束しなければいけない時は、ご家族の同意を得ている。	身体拘束をしない方針とし、定期的に研修会を行っている。利用者が自由に庭に出て、庭掃除や玄関掃除をする姿をさりげなく見守っている。転倒やベッドからの転落が予想される時も、家具の配置や職員の見守りによって、拘束をすることなく過ごせるよう、支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に高齢者虐待防止法関連についての研修を行い、理解に努めている。職員がストレスを溜めないように施設長、管理者が気にかけて、いつでも相談できる雰囲気作りをしている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の概要を理解をし、ご家族の相談に応じることもある。活用について職員と更なる理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間を十分にとり、丁寧に説明するようにしている。不安や疑問がなく理解して頂けるように説明し、質問疑問も解消できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に何が得意でしたいのかを会話の中で聞き取り、できることから取り組んでいる。(例:朝の自室の掃除、買い物、レクの内容など)面会時や近況報告書、担当者会議でお伝えし、理解を得られるように努めている。	訪問時や電話の際に、家族の希望を聞き取り、職員会議で話し合っている。また、利用者一人ひとりの近況報告書に、健康状態や食事摂取量などを記載して、家族に送っている。	取り組み状況を報告書で伝えているが、家族に伝わっていない場合がある事が、アンケート結果から見受けられる。面談の機会やこまめな伝達方法を工夫するなど、家族との信頼関係の強化に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、職員全体会議や管理者会議を行い職員からの意見や提案を代表者と話し合いをしている。また、個々でも直接施設長や管理者は相談に応じ、意見交換を行っている。	管理者と職員は、意見や提案を気軽に言えるような関係性ができている。管理者は、職員の休日や勤務帯の希望を聞いたり、必要な用具購入の要望などは、迅速に対応するよう図っている。書類の簡素化や記載法などについても、職員の意見を反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	幅広い年齢層の職員が働いているため、時間、希望休の配慮をしている。各自が責任と意欲を持って働けるよう実績に合わせ昇給がある。また、年間を通して研修計画を作り知識や技術の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全体会議、職員研修会を開催し、知識や技術が高められるようにしている。外部の研修にも参加し、日々の介護に活かしていけるよう職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	揖斐川町の施設職員連絡会の研修に参加し、他の施設職員と一緒に勉強する機会がある。他施設の運営推進会議に参加し、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談し話を聞く機会を作り、困っていること、不安に思っていることを伺いそれを暫定ケアプランに載せ直ぐに意向に沿ったサービスを提供できるように努めている。その後も希望等を聞き、安心して生活して頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談はご家族同席のもとで行い、要望や不安なこと、今までの思いでや辛かったことなどをゆっくり聴く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望等で必要なことをよく話し合い、他のサービスが必要ならご紹介したり提案をしてご本人にとってよりよいサービスを考えて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	365日施設で一緒に時間を過ごすことで、利用者様同時の絆や職員との信頼関係が自然にできている。介護をする上で、利用者様の意見を取り入れながら個々にあった方法で行うことを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に利用者様を支えていけるように、ご家族と意見交換をして介護に協力と理解を得ている。家族の絆を大切に頂けるように、外出、外泊、面会を自由に行ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望に合わせて馴染みの方に電話したり、手紙や年賀状を作成したり、ご家族に外出支援をお願いしたりと関係が途切れないように支援している。また、面会時にはゆっくりとお話ができるように、お茶やお菓子を提供している。	近隣に住んでいた利用者が多く、同僚や知人が訪れ、居室やリビングで過ごしたり、外出に出かけることもある。また、家族と共に自宅に帰ったり、買い物に行く人もある。職員は次回の訪問に結びつくよう、訪問時には、雰囲気作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動やおやつの時間等は、気の合った方と楽しんで頂いている。トラブルがないように性格の合った方同士とテーブルを分けたりして良好な関係作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、経過を把握し必要に応じて、相談支援を行っている。また、他の施設から移動してきた利用者様についても、以前の施設へ様子をお知らせしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ご本人の意向を把握して心地よい生活が送れるように努め職員がその意向を共有できるように情報交換している。意思疎通の困難な方にはしぐさや様子、ご家族からの聞き取りで把握している。	入居時のアセスメントや、日々の会話から、本人の好きなことを聞き取り、ケアに活かしている。庭のベンチで歌を歌ったり、玄関掃除や訪問者への挨拶をする人などもあり、一人ひとりがしたいことを把握し、見守りながら職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居段階で生活歴や習慣、馴染みの方、暮らし等を把握するように努めている。これまでのサービスやかかりつけ医や入居に至る経過も把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課やADL、現病などアセスメントをとり把握している。また、病気については主治医の意見書を確認している。時間が経つと状況も変化するので、その都度アセスメントをとり現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを通しケアプランの進行状況を把握して、新プランに繋げている。事前にご家族に意向書を記入して頂くことで、スムーズに担当者会議を行うことができている。ご本人のニーズを優先し、よりよい生活が送っていただけるよう努めている。	担当職員が記録した利用者の日々の情報に基づき、職員間で話し合いながら計画作りを行っている。利用者の歩行能力や嚥下機能の状態については、主治医と看護師の意見を加えながら、3ヶ月毎に計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録簿の中にケアプランが分かるように工夫し、それに沿った支援を行えたか記入している。気になったことは連絡ノートにも記入して職員間の情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりご家族の状況が異なり、その都度意見を聞き対応している。特に、リハビリや外出など要望に沿って対応している。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の地域資源(公民館、保育園、スーパー、神社、ボランティアなど)を把握し、関わりながら利用者様が楽しんで生活して頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様には希望でかかりつけ医を選択して頂いている。施設の主治医は月2回の往診、月2回の訪問看護による健康管理をしている。24時間連携しており、急変時に迅速に対応できるようにしている。	入居時に、かかりつけ医について、以前の主治医と協力医の選択が出来ることを説明している。多くの利用者が協力医を選択しており、定期的往診と訪問看護の連携により、適切な医療を受けられるよう支援している。他科への受診は、家族同行を基本としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の情報交換としてノートを利用して共通認識のもと協働して支援している。特に寝たきりの方、体調不良の方を中心に、お互いが協力して支援をしている。往診、訪問看護時は立ち会い、適切な医療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時には介護サマリーを提供し、安心して治療ができるようにしている。入院中の様子などを病院側や家族の方と情報交換し、早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居された時におおよその意向を聞き、実際に重度化や終末期を迎えた時には医師、ご家族、介護・看護スタッフ皆で話し合いをしている。私たち職員ができることとご家族ができることの役割についても意見交換している。	慣れ親しんだホームで、最後まで暮らせるよう、介護、医療、看護体制を整え、重度化、終末期には、早い段階から医師と家族、関係者で話し合い、本人と家族の意向に沿って進めていくよう取り組んでいる。看取りについては、夜勤の人数を増やしたり、職員のメンタルサポートにも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内で研修を行っており、利用者様が急変された時や事故が発生した時には、慌てず適切な対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち会いの下、年2回災害時訓練をし、避難経路の確認をしている。夜間想定訓練もしており、夜勤者が協力し、慌てることなく安全に避難できるようにしている。災害時には近隣の方に協力して頂けるよう依頼している。	消防署の立ち会いの下、年に2回、土砂災害や水害、夜間想定を含めて、訓練を行っている。地域のハザードマップを基に、避難経路や緊急連絡網の確認を行い、利用者の安全を第一に訓練に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に分かりやすい言葉で話しかけたり、接遇研修を行ったりしている。職員同士の態度や言葉使いが適切でない時にはその都度指摘している。また、部屋に入る時はノックをし、プライバシーに気を付けている。	接遇研修では、利用者への声かけや会話の仕方などを学び、日々のケアに活かすよう取り組んでいる。名前の呼び方は、本人と家族の希望を聞き、常に、利用者一人ひとりの尊厳を守りながら、思いに寄り添い、誇りを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と会話をする時には思いやりのある会話をし、一方的にならないようにしている。また、活動する時には本人の意思を尊重するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	色々なレクリエーションや行事の時には、本人の体調や気分にあったレクリエーションを行うよう配慮をし、方法を変えたりして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には1日を気分良く過ごせるように整髪をし、季節に合った服装ができるように支援している。ご本人の好みの服をご家族にも確認してその人らしい服装を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分達で植えた野菜を採ったり洗ったりしてでき上がった料理を、皆さんに「これは今日畑で採れた野菜ですよ」と言い、一緒に味わって頂けるようにしている。ご本人の希望に合わせて部屋食での対応もしている。	利用者は、職員と共に料理を作る楽しさを味わいながら、下準備や盛り付けなどを手伝っている。朝は、パンと米飯を選択することができる。また、利用者の状態に合わせて、トロミや刻み食など、職員が手作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や年齢に応じ1日の必要カロリーや水分補給をしている。食事は体調に合わせて形態を変えたりして栄養を摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は職員が声かけをして行っている。自分でできない方には職員がケアを行っている。また、希望される方には歯科医の往診をお願いしている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく自宅にいた時と同じような排泄方法を保って頂けるように自立を促している。個々の排泄パターンで声かけや誘導、介助を行い失敗を減らしている。	利用者の排泄パターンを把握し、声かけと誘導で、トイレでの排泄を支援している。夜間も声かけとトイレ誘導を行っているが、本人の状態に合わせたり、安眠のために、ポータブルトイレやおむつを使う場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の利用者様は、落ち着きがなく食事あまり進まず、トイレに何回も通われるため、日頃から水分を摂って頂いたり歩行を増やす等して看護師と相談しながら薬を服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番の入浴が良いと言われる方、ゆっくり温まりたいと言われる方等、要望に応えられるよう曜日や時間を決めて入浴して頂いている。お湯の温度や脱衣場の温度にも気を付けて支援している。	入浴の基本回数はあるが、本人の希望があれば、いつでも入浴できる体制を整えている。湯温や時間帯なども、要望に応じている。また、季節を感じられるよう、ゆず湯やしょうぶ湯などで、利用者が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり時間も違いますが、食事後1時間程お昼寝をして頂いている。その後はティータイムを楽しんで頂いている。夜は寒暖差を考えながら衣服の調整に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を確認し、作用を理解して副作用が出た時は主治医に相談している。飲むのを嫌がられる利用者様は見守りをして支援している。処方箋が変わった時には体調の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何か手伝いたい、何か仕事がしたいという利用者様の気持ちを理解し、できる限り庭掃除や窓ふき、洗濯たたみ等をして頂くようにしている。生活歴や自分の思いを話される時は、時間の許す限り一緒にお話を聞くよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力で外出できる利用者様には、気持ち良く外出して頂けるよう、服装等に注意している。また、どうしてもご家族が無理な場合には職員が付き添い外出している。施設内を散歩して頂いたり、日当たりの良いデッキ等で外気浴等して頂いている。	近隣の保育園までの散歩、喫茶店のモーニングや買い物などへ出かけている。家族には、利用者の思いや希望を伝え、病院への受診同行の際に、自宅への一時帰宅や墓参りなどへ行けるよう依頼し、本人と家族との絆が深まるよう支援している。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理のできる方は所持して、欲しい物を購入されている。管理のできない方は、小口資金とし預り、希望時に使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話を希望された時は職員が取り次ぐようにしている。携帯電話の方は自由に連絡を取っている。手紙や年賀状作成も支線している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は昔ながらの物や花などを飾り、利用者様が快適に過ごせるようにしている。季節に合わせた飾りつけもしている。また、落ち着いて生活できるように自然の光を入れている。部屋やトイレを迷わないように色使いにも工夫している。	共用の空間には、柔らかい自然の光が入り、季節の花や植物が飾られている。リビングから居室へ向かう廊下には、手すりが設置されている。懐かしい調度品や家具が置かれ、利用者がゆったりと落ち着いて過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様のペースに合わせてお部屋で過ごされたり、フロアで皆さんとお話しされたり、お気に入りの場所で過ごすことができるように空間を工夫している。思い思いの場所でテレビや会話、ドリルやパズル、塗り絵等をして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過せるように、馴染みの物や写真等を自由に置かれ、利用者様に合ったお部屋作りを支援している。希望の方には畳の部屋も用意している。ご本人の心身に合わせた家具の配置にも配慮している。	表札をかけたたり、居室のドアの色目を変えるなど、利用者が自分の部屋を間違えないよう工夫している。使い慣れた家具を持ち込み、自分の作品を飾るなど、個性ある居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており、車椅子の方が自由に移動できる。部屋やトイレは扉で色分けして分かりやすいようにしている。		